

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市永楽台地域ふるさと協議会
日 時	令和元年7月18日（木）午前10時～11時30分
場 所	永楽台近隣センター 和室
参加者	ふるさと協議会役員等 : 13名 地域づくり推進部長 : 1名 永楽台近隣センター所長 : 1名 柏市社会福祉協議会職員 : 1名 地域支援課職員 : 5名 地域づくりコーディネーター : 1名 合計 : 22名
次 第	別紙のとおり
意見 交換	ふるさと協議会役員 ・担い手不足についてはふるさと協議会としての問題ではなく、町会としての問題である。したがってふるさと協議会よりも町会活動の宣伝をした方がよいと思う。そうしないと、結果的にふるさと協議会に人が集まらないので、そちらに焦点を当てた方がよいと思う。 ふるさと協議会役員 ・私自身は町会には関わらず、ふるさと協議会にのみ関わっているので、自分の後継者はふるさと協議会としての立場で探す必要がある。 ふるさと協議会役員 ・亀甲台町会では、昨年度は町会の夏まつりのお手伝いを募集するA5のパンフレットを町会内に全戸配布したが、1件も応答はなかった。今年度は子ども会を通して、お父さんたちに「焼きそばを焼いてみませんか？」という投げかけをしたが、同じく1件も応答はなかった。 ・町会内で動ける人員は対外的には7名（名簿では11名）と言っているが、本当に動いているのは5名の役員で、みんな仕事も持っているので、日曜日に役員会を開催する際にも、必ず1～2名は欠席者がいる。自分自身も今年は2回休んでいる。 ・上記の事情もあり、町会の運営方法（役員選出の方法など）について組織改革をするか問うアンケート調査を実施した。具体的な提案

内容としては以下のとおりで、7月末を回答期限としている。

- ①町会長は班長から選出，かつ任期1年・再任無し。
- ②〇〇部長は意味がないので，役員は「事務局」として集約。
- ③事務局からのバックアップのもと，町会内のことだけを考える町会長とする。

- ・今までアンケート調査は年に2～3回行っているが，およそ半数が返ってくる。今回は結構返ってくると見込んでいるが，アンケート内容の中に「あなたにとって町会の活動ってなんですか？」という設問がある。今一番怖いのは「必要性を感じない」という回答が半数を超えてしまうことで，その場合町会を維持することはできないと考えている。ただ，町会内の現在の年齢構成として65歳以上が65%程度いるので，その人たちは「町会不要」という意見にはならないと思う。したがって，半数を超えることはないと思込んでいる。
- ・いろいろな形で町会長の名前を出すことがあるが，もしそれが「必ず」となれば，もう次の町会長はないと感じている。
- ・まずは負担をどう軽減させることができるかが大事で，例えば会議は出られるものだけ出してもらうことや事務局の設置なども必要だろう。班長は役員に繰り上げて，班長会を役員会とすることも考えられる。
- ・6つのキーワードの説明の中でも，マニュアル作成という話が出たが，マニュアルを作るためには細かい規定が必要となる。例えば決裁規定も今までは町会長のみ判断であったが，本来は役員が誰がどう判断するかまで定める必要がある。「細かい規定を決めるための規定」は作ったが，さらに細かいものを作るためにはそこそこの負担がかかる。ある程度は書けると思うが，簡単にはいかないだろう。アンケート調査の結果，組織改革が承認されてから3～4か月は必要となり，来年度の総会には間に合わないだろうと話している。間に合わない場合，町会を解散する訳にもいかないのです，以前に地域支援課にも相談した際も「来年は町会がないかもしれない」というお話をしたが，半分冗談で半分は冗談ではないというのが現状。

ふるさと協議会役員

- ・今の話を伺っていると，究極はどうしたらよいか分からないということだと思う。

ふるさと協議会役員

- ・はい。組織改革も総会で総意が得られなければ意味がないし、班長たちにも賛成されなければそこでおしまい。ある意味でアンケート調査は根回しの第一段階。その話がなくなってしまうと、町会活動休止となるだろう。

ふるさと協議会役員

- ・市として、そうならないために指針を示してほしい。東豊住町会でも、若い人に話をしても関心のない方が多い。子ども会が努力して人数を集めてくれて、お祭りや餅つき大会などに協力してもらい、行事がやれている。役員は十数人いるが、みんな70歳以上で、そこに若い人を取り入れることについて町会長も努力しているが、なかなか実らない。はっきり言ってどうしたらよいか分からない。魅力はない。

ふるさと協議会役員

- ・アンケート調査で「町会の良いところはなんですか？」という設問に対する項目を作るのに苦労した。

ふるさと協議会役員

- ・苦労ばかりが多くて、得られるものはあまりないように思う。それでも活動を続けるのは、町会という組織があるから「誰かがやらないといけない」という思いからできているだけだと思う。辞めてしまうことは簡単なので、若い人を巻き込むと言っても、地域支援課などから良い案を出してもらいたい。

柏市職員

- ・町会は元々の成り立ち（分譲で建設など）が近いこともあり、町会によっては高齢化によって町会活動が難しくなっている。市としてはまず町会の「負担を軽くすること」について取り組んでいるが、「活性化」とは違った取り組みではあると思う。妙案はないが、「布施新町では町会を合併して、役員の人数を減らすという取り組みをしている」といった事例を紹介したり、地域協働を考える会でもこうした事例紹介をしたり、町会の相談に乗ってくれている。亀甲台町会の規約を作る件についてもお手伝いできるかもしれない。

ふるさと協議会役員

- ・町会業務のみを済ませたら解散するだけでは、活動が楽しくないと思う。たまたまかもしれないが新あかね町会は昔から酒飲みの集まりだった。どちらかというと新しく開発された住宅地だったので、当時は若い人たちが転入してきてきて、若いお父さん同士で集まって「お祭りでもやろうか」という話からどんどん立ち上がっていった。町会行事となると、役員会なのか酒飲み会なのかわからないところからスタートして、代々町会行事では必ず酒を飲むようになった。そういう酒飲みの集まりが「ついでに町会をやっている」という感覚で、楽しみがあるからみんな元気にやっている。新あかね町会が特殊かもしれないが、執行部役員が10人と班長が13人いて、班長は毎年変わるが執行部役員は全員酒飲み。もちろん町会のお金では飲まない。お酒が無かったら今のような結束は保てていないだろう。

ふるさと協議会役員

- ・宴会の席は昨年度までは設けていたが、「宴会開始」と言った瞬間にほとんどの人がいなくなる。役員は60代で仕事を持っているので、終わったらすぐ仕事に行かないといけないという方が多い。会社でもそうだったが、若い人は「宴会」と言った瞬間帰ってしまう。班長たちもそうなので、宴会は若い人たちの集客には全く役立たない。高齢の方々も病気でお酒を飲めないこともあり、お祭りで日本酒を用意しても2/3は余り、ビールも何十本もあまり、結局捨ててしまう。

柏市職員

- ・今年度、新たに避難所を立ち上げる事業が気になるので、上田会長にお話を伺いたい。

ふるさと協議会役員

- ・学校での避難所の運営について、今までやったことがなかったので企画した。昨年度にたまたま柏第八小学校の校長先生から「やってみよう」というお話をいただいたこともあり、1回やっておいた方がいいと思った。今年度は準備期間として勉強し、来年度に実際に訓練をする。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会広報誌「セブン」の最新号を配布しているが、そこにも「柏第八小学校を避難所とした「避難所開設・運営訓練」の準備を開始します！！」という記事を掲載している。

柏市職員

- ・地域支援課で用意しているプラス10という町会が新しい事業を立ち上げる際の補助率90%（1回目のみ）の補助金制度があり人気がある。今年度は13町会が対象となっているが、そのほとんどが「防災」をテーマにした事業を提案している。「防災」については皆さんの関心が強く、地域からも「防災のテーマでやってみたい」という声が多いと聞いている。また、支えあいや子育て支援などもあるが、それらに対する地域の感触などは何かあるか。

ふるさと協議会役員

- ・各町会には自主防災会という組織があり、形だけの組織もあるが、実際に活動している組織は少ないと思う。マニュアルだけはあるが町会単独で訓練できている町会は少ないと思う。

ふるさと協議会役員

- ・若い人を集めるという話について、ひばりが丘町会は新しい住宅が建ってきていることもあり、比較的若い人が多い。いちばん良いのは子どもを引き込むことで、特に若いお父さんは仕事を持っているとも言われているが、地域への関心の有無に仕事は関係ない。働き方改革で休日は増えたり残業が減ったりしている中で、結局は楽しいところに人は集まる。特に若い家庭は子どもが中心なので、子どもを集めて喜ばせるイベントを多くすれば大人はついて来る。
- ・例えば町会でキャンプを数年やっているが、家族でバーベキューなどの催しをやると、お父さんは子どもの前でいいカッコをしたいという思いもあり、肉や焼きそばを焼くなど積極的に参加する。少し話をしてそのまま町会のお祭りでも焼いてもらうこともある。というように輪を広げていくことがよいと思う。
- ・以前は回覧板での周知も行っていたが、そもそも回覧板はほとんど見ない。返ってこないものもある。
- ・もっと顔と顔を合わせて仲良くなることがいちばんで、そのためには楽しいイベントをいくらできるかが大切だと思う。

ふるさと協議会役員

- ・町会に入る人は暇な人でないといけない。近所のキーマンに暇な人はいないかと聞いてみて2名が役員になってくれた。
- ・定年退職になった公務員の方に何人かあたっているが、皆さんに忙しいと言われてしまう。
- ・私自身、定年退職をしてから町会長は4年目だが、65歳以上の方でも忙しい方は多い。実際に町会の役員は12名いるが、動けているのは5名以内で体調が悪い方が2名もいる。自分は町会長だが、班長の仕事もやっている。
- ・町会を必要ないと感じている人が増えていっている状況だが、それを解決するには、言葉は悪いが「暇な人」に常に声をかけ、集めることが大切。
- ・町会の夏まつりでは新しく盆踊りの太鼓を叩く人や神輿を担ぐ人の会を小中学生二十数名で作りたいという意見があり（ヒトミの会）、町会の下部組織として補助金を出して設立させることとした。同じく下部組織の老人会や子ども会からは「季節行事にだけ参加する目的で作った会に補助金を出すのか」という反発の声もあったが、他の町会の行事にも積極的に参加するとのことと、若い人たちにも町会活動を知ってもらおうという意味合いもあり、設立が承諾された。
- ・楽しい行事はなかなか作れないので町会で初めて会う人には積極的に声掛けをしているが、はっきり言って解決策はないのが現状。

ふるさと協議会役員

- ・「報酬を出す」というキーワードがあるが、ふるさと協議会の担い手が少ないことを受けて出てきた内容かと思う。町会で取り入れているところはあるが、ふるさと協議会で取り入れているところはあるのか。また、取り入れているふるさと協議会があったとして効果は見込めるのか。

柏市職員

- ・「報酬を出す」というキーワードについては、報酬に限らず有償で動ける方をつくるという意味で話が出た。これを受けてかはわからないが、今年度より光ヶ丘ふるさと協議会では有償で事務局員を入れるという取り組みを始められた。今まで会長が行っていた事務仕事を事務局の方にお渡しして、役員負担を軽減する目的で取り入

れたと聞いている。

- ・事務局については、他には富里にもいらっしゃるが無償でやられているので、今回の有償となると光ヶ丘がはじめて。

ふるさと協議会役員

- ・その場合だと「報酬を出す」というのは、事務局という仕事に限った話なのか。

柏市職員

- ・はい。
- ・担い手不足の話題が多いがそれ以外でもお聞きする。

ふるさと協議会役員

- ・永楽台町会はふるさと協議会内の7町会の中では最も世帯数が多く、およそ1,300世帯ある。町会としてはそれをひとつにまとめることはできないので、5つのブロックに分けて各ブロックに副会長を置いてまとめてもらっている。
- ・国の方針なのか、「70歳まで働け」ということで高齢者の労働者を増やしていこうとしている中で、町会の役員をやってもらうことは難しい。高齢とはいっても、皆がそれぞれの立場で町会活動を一生懸命やってくれている。この状況をどこまで守ることができるかが町会の課題。若いうちは体力があり頭も働くが、歳を重ねるごとに健康を損ないやすくなってくるので無理はさせられない。そういう中で、役員になってくる人をどう育て、継続できる形でどう動いていただくか。
- ・永楽台町会について言えばブロック単位の方が動きやすいので、1ブロックでおよそ250世帯なので、人数だけで言えば大きなことができるはずだが、若い方がなかなか関心を持ってくれないこともあり難しい。
- ・実際、永楽台町会の子ども会が人数が少なくピンチ。以前80名くらいいたが今では15名程度。若い親の方々も、子ども会を嫌っているわけではないが、町会の役員になってしまうことに対する不安や両親共働きによって多忙であることも影響しているので、親の意思で子ども会への入会について決められてしまっているのが現状。若い人たちを巻き込むことは大事だとは思いますが簡単にはいかないと思う。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会の事業で子育てサロンがあり、週に5回（火～土曜）実施しているが、市内でもここまで頻繁にやっているところはないと思う。平成16年から始まり当初から関わっているが、以前に通っていた子どもの親たちに対して「サロンのサポーターになってくれないか」と声掛けをしていたがなかなか難しかった。前日同じ内容のポスターとチラシを作ったところ、60～70歳代の方が3～4名、見学をさせてほしいとのことで、その内の2名には登録していただいた。大きな効果は望めないが、定期的に募集していくことは必要だと思う。
- ・近所の方に聞いてもふるさと協議会が何をやっているか分からない方が大半なので、皆が地道に広げていくしかないと思う。
- ・先日、柏第四中学校の学校評議員会で「きんりんの会」で中学生も立派な担い手になれますよ」ということを教頭先生から言われた。地域によっては中学生が登校中にゴミ捨てを手伝っているところもあるとのこと。小学生や中学生の頃から「自分はこの地域で過ごしている」という意識を育てていく手を打っていくことも必要だと思う。
- ・そういった話をしている時に「防災の問題でも中学生も担い手になれるかな」といった話も挙がっていた。

ふるさと協議会役員

- ・日立台町会は小さな町会で116世帯が暮らしている。未加入世帯はアパート居住者の2世帯のみだがそれは仕方ない。
- ・担い手の問題についても岩原顧問が町会長をやられていた頃から手を打たれていたのか、私が会長は4年目だが後任とその次の後任くらいまでは目処が立っているので、あと15年くらいは町会長については問題ないので困っていない。
- ・いちばん困るのはふるさと協議会の研修で人を出す時に、116世帯だと皆行ったことがあるため、2～3名出すときの人選が非常に困る。
- ・町会の行事としては3月末のお花見のみで、今年は80名くらいが集まった。
- ・防犯・防災についての問題もあるが、訓練よりも地域（隣近所）の団結が大事で、「地域の団結に勝る防災訓練はない」と思う。
- ・自主的な活動はいくつかやっているが、毎月10日と25日に有

志でウォーキングを行っている。メンバーは10～20名程度だが、その中で親しくなっていて地域の団結が出てきていると思う。その他にも、春と秋に子どもたちを集めて芋ほりをやらせている。

- ・ 116世帯の内20世帯は新しい醸成地の若い方々で、町会の業務などはできないが、その20世帯は非常に団結が固く、年に3回くらいバーベキュー大会を実施している。そうした活動に取り組んでいただけているのであれば、なにも町会を前面に出すことはないと思う。防犯にしろ防災にしろ、その地域でまとまってくれていれば大丈夫なので困ってはいない。
- ・ 支えあい会議でのいちばん大きな問題はごみ問題で、各戸収集については皆賛成してくれるが、若い人に話の聴くと「今のままでいいじゃないか」という意見も多い。流山市や我孫子市は要支援者の希望者には各戸収集で対応しているとのこと。柏市でも高齢化は進んでいくので、是非とも検討していただきたい。

柏市職員

- ・ 高齢者世帯に限ってゴミの各戸収集を行うことについては、柏市では15年ほど前に一度議論され、その時には高齢者が急激に増加することが見込まれて、いつまで税金で補えるかという話になり、むしろそれを共助の中（助け合いやサポーター制度など）で賄えるような仕組みを柏市で作っていくべきではないかという取り組みに繋がった。

ふるさと協議会役員

- ・ その考え方は違うと思う。東京都の武蔵野市や三鷹市、大阪府池田市など知る限りでも各戸収集は増えてきており、15年前に議論されてから、柏市としてそのような事例をあまり調べていなかったと思う。支えあい会議も大事だが、そのような根本にあることを考えてほしい。

ふるさと協議会役員

- ・ ゴミは東京都内では家の前に置いておけば持って行ってくれると認識している。お金の問題（運転手の人件費など）なのかは疑問。基準は分からないが、支えあい会議にお金をかけているなら柏市でも各戸収集をやるべきかなと思う。調べてみてもよいと思う。

- ・「ふるさと協議会を知ってもらおう」について、町会で行っている中途半端な規模の楽しいイベントを、ふるさと協議会単位の大きな規模でできればいいのかなと思う。例えば、夏祭りやバーベキューを合同で実施するなど。新しい提案としては花火大会や餅つき大会なんかは子どもは喜ぶと思う。喧嘩神輿などの各町会で競い合うようなイベントも盛り上がり、若い人も集まると思う。

ふるさと協議会役員

- ・人が集まるには高齢者も子どもたちも近い所でないと集まれないという現状があるので、永楽台近隣センターを中心とした行事に集まることは町会ごとに事情が異なると思う。
- ・常盤台町会には近隣センターそのものを知らない方が非常に多い。
- ・地理的には富里近隣センターの方が道のりも平らで近いイメージもある。小学校（柏第八小学校）に通い始めれば足を運ぶことはあっても、行事に参加するかはわからない。
- ・町会への加入が任意なので、それぞれの事情で町会を辞められる方も出てきているのが現状。
- ・町会活動が全て任意でやられている中で、市と町会の関係（町会を通して書類のやり取りがあることなど）を説明しても限界があるし、ごみステーションの利用についても「税金を支払っている」と言われてしまえばそれまで。
- ・「市と町会」という関係を今後も継続していく上では、「必ず町会に入って下さい」ということをベースに考えないと難しいと思う。その上で、小単位でそれぞれの地域で活動していくことが必要だと思う。
- ・親子会についても、市子連の負担が大きいと聞いており、担当者からも市子連を辞めたいと言われている。大きな単位の活動が負担になると、小単位の活動ができなくなってしまうので、親子会の役員もできなくなってしまう。

ふるさと協議会役員

- ・東豊住町会では盆踊り大会と餅つき大会では、子ども会も寿会（老人会）も新たにできた組織も一体となって取り組んでいる。両大会では1日で220～230名くらいが参加してくれる。その中で仲間をつくっていくことから始めていった方がいいかなと思っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・町会長は大変なので、副会長としては人集めなどを手伝うこと、皆が集まれる場所をつくることを継続することなど、出来ることからやっていこうと思っている。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと協議会に入ってから20年ほどだが、以前にも担い手不足について議論したことがあった。その頃は社協が別の組織だったころなので、一本化したときに別の問題が出てきた。 ・今の亀甲台町会が抱えているような問題があったこともあるが今ほど深刻ではなかったが、その時は社協の方が中に入り、問題を解決に導いてくれた。担い手不足は今までも何回も味わってきているが、亀甲台町会にも今回の件については乗り切っていただきたい。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係や当番にあたっている時に家を留守にしなければいけない時のために、隣近所の方々とのコミュニケーションをとることは大切にしている。 ・「きんりんの会」については、登録者が7町会で87名おり、活動実績としては平成31年2月までで35件。現在は仕事が少なく、協力員が余ってしまっている状況。後々、協力員が足りなくなってしまうことが心配。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足は答えの出ない永遠のテーマ。それでも町会は回さないといけないので、それぞれのやり方で続けているが、活動していれば人が集まってきてその中には担い手もいるだろう。 ・町会活動は人探しがいちばんの仕事で、特に大事なものは町会執行部の核を担ってもらえるような方を探して育てていくこと。 ・「こうやればいい」ということはないが、市や社協でも参考になるような事例を取り上げていただけたらいいかなと思う。
<p>いただ いたご 意見の まとめ</p>	<p>主に次のような御意見を伺った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足とはふるさと協議会ではなく町会の話との御意見があった。 ・亀甲台町会では町会への協力の意識が低く、町会への協力の意味がアンケート調査を実施しているが今後のことはまだわからない。それに対して飲み会の実施するなどの案も挙がったが、様々な価値

観があるので難しい場合もあるとのことだった。

- ・ひばりが丘町会では若い人を巻き込むために楽しいイベントをたくさんやり、子どもを中心に巻き込んでいくことを大事にしているとのことだった。
- ・東豊住町会では会長は「暇な人を探している」とのことだが、それは町会の方ときちんとコミュニケーションを取って声をかけながら人を集めているということだと思う。また、新しい会をつくりそこから若い人にもイベントに参加してもらえるようにしていると伺った。
- ・永楽台町会では今の役員の方々にどう続けていただくか考えていると伺った。子ども会も縮小してきており、若い人を取り込むことはやはり難しいと伺った。
- ・ふるさと協議会の子育てサロンでの取り組みでは、定期的なポスターやチラシの作成、サポーター募集を地道に続けていくことが大事と伺った。
- ・日立台町会では地域の団結力に勝る防犯・防災はないという話から、それは日々のウォーキングやお花見を通して培われていると伺った。
- ・行政によるごみの各戸収集を検討するべきとの御意見があり、これについては各戸収集と支えあい会議のコストを比較することも必要だろうと思う。
- ・常盤台町会では永楽台近隣センターまでは距離があるので行事への参加が難しい。また、全体の活動が地域の活動の負担になっているケースもあるとの御意見があった。
- ・人を集めるには会長と連携して、一本釣りや声掛けが必要との御意見があった。
- ・ふるさと協議会ではこれまでも担い手不足に悩んだことはあるとのことだが、亀甲台町会については市でも相談には乗るが、ふるさと協議会内でも相談等に乗っていただきたい。
- ・「きんりんの会」はサポーターも多く素晴らしいとお話でした。